

グローバル水素株式ファンド

<愛称:H2>

設定日：2021年8月16日

償還日：無期限

決算日：原則、毎年8月18日

収益分配：決算日毎

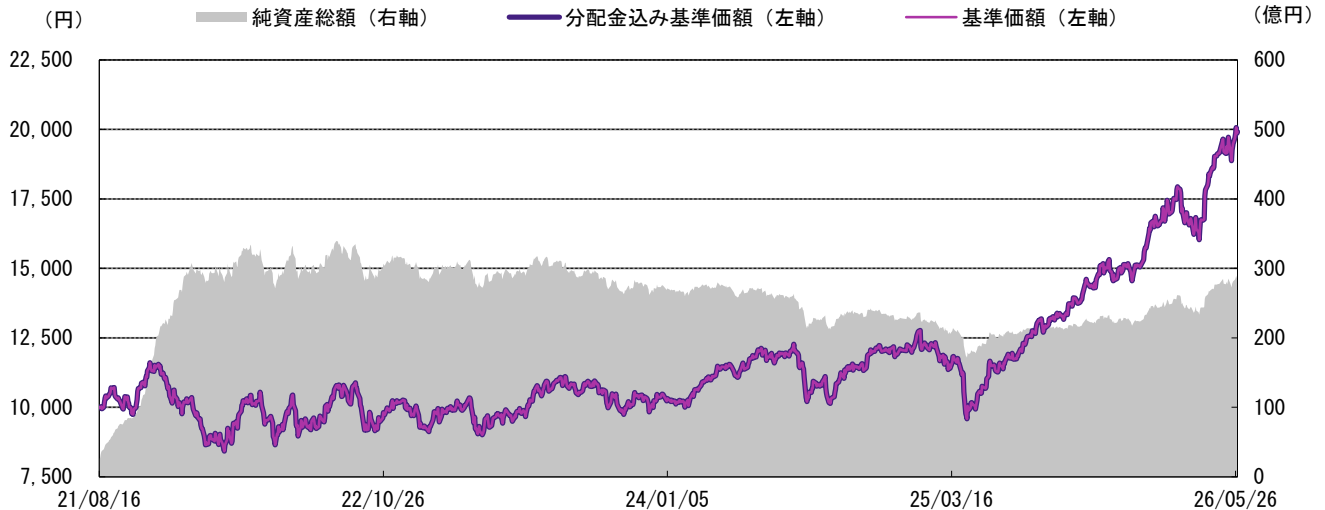
基準価額：19,909円

純資産総額：286.69億円

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

運用実績

<基準価額の推移グラフ>



※分配金込み基準価額の推移は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。
 ※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。

<資産構成比>

株式	98.3%
うち先物	0.0%
現金その他	1.7%

※マザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率で、対純資産総額比です。

<分配金実績（税引前）>

22・8・18	23・8・18	24・8・19	25・8・18
0円	0円	0円	0円

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

<基準価額の騰落率>

1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
4.01%	11.37%	32.83%	73.05%	102.37%	99.09%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

<基準価額騰落の要因分解>

前月末基準価額	19,141円
要 株式	910円
為替など	-115円
因 分配金・その他	-28円
当月末基準価額	19,909円

※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



ポートフォリオの内容 ※下記データはマザーファンドの状況です。比率は、マザーファンドの純資産総額に対する比率です。

<通貨別組入上位10通貨>

通貨	比率
アメリカドル	47.9%
ユーロ	25.0%
スウェーデンクローナ	6.8%
香港ドル	5.2%
オーストラリアドル	5.1%
日本円	4.4%
イギリスポンド	3.3%
デンマーククローネ	1.7%

<国・地域別組入上位10カ国>

国・地域名	比率
アメリカ	41.7%
フランス	8.6%
ドイツ	8.3%
イギリス	7.1%
日本	7.0%
スウェーデン	6.5%
中国	5.2%
イタリア	5.1%
オーストラリア	5.1%
フィンランド	2.9%

<業種別組入上位10業種>

業種	比率
資本財・サービス	63.6%
素材	12.2%
情報技術	11.9%
エネルギー	8.4%
金融	3.4%

<投資カテゴリー別比率>

投資カテゴリー	比率
つくる	26.3%
運ぶ・貯める	41.2%
使う	31.9%

<規模別構成比率>

時価総額	比率
超大型株（500億米ドル以上）	63.8%
大型株（100億米ドル以上500億米ドル未満）	26.1%
中型株（20億米ドル以上100億米ドル未満）	7.7%
小型株（20億米ドル未満）	1.8%

※「投資カテゴリー」はアモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッドが考える分類です。

<組入上位10銘柄>（銘柄数：34銘柄）

	銘柄名	国・地域名	業種	投資カテゴリー	比率
1	BLOOM ENERGY CORP- A	アメリカ	資本財・サービス	使う	7.1%
2	INFINEON TECHNOLOGIES AG	ドイツ	情報技術	使う	6.2%
3	QUANTA SERVICES INC	アメリカ	資本財・サービス	運ぶ・貯める	5.9%
4	CUMMINS INC	アメリカ	資本財・サービス	使う	5.2%
5	WEICHAI POWER CO LTD-H	中国	資本財・サービス	使う	4.6%
6	CURTISS-WRIGHT CORP	アメリカ	資本財・サービス	使う	3.9%
7	LINDE PLC	イギリス	素材	つくる	3.8%
8	AIR LIQUIDE SA	フランス	素材	つくる	3.7%
9	AMPHENOL CORP-CL A	アメリカ	情報技術	つくる	3.7%
10	MACQUARIE GROUP LTD	オーストラリア	金融	運ぶ・貯める	3.4%

※個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。

※上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

※国・地域名はアモーヴァ・アセットマネジメントが信頼できると判断したデータに基づき、主として、各銘柄の本社所在地を表示しています。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

米国株式市場は、前月末と比べて上昇しました。米国の消費者物価指数（CPI）と生産者物価指数（PPI）が市場予想を上回り米国のインフレ加速が懸念されたことが株価の重しとなったものの、米国と中国の首脳会談にあわせて米国の農産物や人工知能（AI）用半導体の中国向け輸出期待が高まったこと、米国大統領の発言を受けて米国とイランとの間で戦闘終結に向けた協議が進展しているとの見方が広がったこと、米国企業が新規株式公開（IPO）を申請し、米国市場において過去最大級の案件になると観測され関連銘柄が堅調な推移となったことなどから、株価は上昇しました。

欧州株式市場は、前月末と比べて総じて上昇しました。ユーロ圏のGDP成長率が市場予想を下回り景気の減速感が示されたことや、欧州中央銀行（ECB）による今後の利上げ観測が高まったことなどが株価の重しとなったものの、米国と中国の首脳会談にあわせて人工知能（AI）用半導体の中国向け輸出期待が高まり、欧州の関連企業も恩恵を受けると見込まれたことや、米国とイランとの間で戦闘終結に向けた協議が進展しているとの見方が広がったこと、ドイツのサービス業購買担当者景気指数（PMI）速報値が市場予想を上回ったことなどが支援材料となり、株価は総じて上昇しました。

◎運用概況

当月、当ファンドの基準価額は前月末比で上昇しました。市場は、4月に続き5月も堅調に推移しました。投資家は、地政学的リスクの後退を引き続き好感しました。

水素関連のニュースとしては、5月は水素の計画段階からインフラ接続への移行が着実に進展し、欧州が短期プロジェクトの構築を主導しました。フランスの産業ガスメーカーがロッテルダムで進める200MW規模のプロジェクトでは、最初の電解装置群が到着しました。これは2027年の稼働に向けた具体的な進展を示すものであり、大規模生産と下流需要を結ぶ統合拠点として港湾の役割を一層強化しています。また、オランダでは32kmの水素パイプラインが稼働を開始しました。これにより、水素と最終利用者の物理的な接続が可能となりました。これは、基幹インフラが運用段階に移行しつつあることを示す重要な兆しです。こうした施設のネットワーク化は英国でも着実に進んでおり、水素を英国ハンバーから鉄鋼、化学などの産業利用者につなぐことを目的とする約150kmの地下パイプラインに関する協議も実施されました。これらの動向を総合すると、試験的プロジェクトからシステム統合への、緩やかではあるものの重要な協調的な移行が進んでいることを示しており、今後のより大規模な水素展開に向けた基盤が整いつつあります。

個別銘柄では、ドイツの半導体大手はテクノロジー株が幅広く上昇するなか、決算発表後に株価が上昇し、相対的に堅調なパフォーマンスとなりました。同社は、急拡大する人工知能（AI）データセンターブームを受けて、通期の売上高見通しを引き上げました。イタリアのケーブル会社は、ハイパースケーラー向けの案件が目されるなか、相対的に堅調なパフォーマンスとなりました。イタリア拠点の多国籍企業は、決算で売上高が鈍化したものの、新規受注や受注残が好調だったことを受けて、相対的に堅調なパフォーマンスとなりました。さらに、南欧最大級の水素プロジェクトへの参画を発表したことも好材料となりました。

一方、米国のエネルギー・テクノロジー企業と米国の油田サービス企業は、イランと米国の緊張緩和や原油価格の下落を背景に、相対的に軟調なパフォーマンスとなりました。デンマークの風力タービンメーカーは、決算が好調で受注残が過去最高に達したものの、相対的に軟調なパフォーマンスとなりました。市場の反応が限定的にとどまったのは、サービス部門への懸念が意識された可能性があります。

◎今後の見通し

5月は、市場の流動性が依然として高水準にあり、リスク選好が高まっていることを再認識する月となりました。こうした状況は続く可能性がありますが、市場を牽引する銘柄が限定されているため、市場は主要指数が示すよりも相対的に脆弱な状態にあるとみています。このような背景を踏まえ、当ファンドでは引き続き分散投資のアプローチを継続しています。

水素については、引き続き前向きな見方を維持しています。エネルギー転換の次の段階は、技術の融合によってさらに明確になりつつあり、特にAI、クリーンエネルギー、電池、ロボティクスが相互に強化し合う要因となっているとみています。これにより、低コストの再生可能エネルギーが広く利用できるようになり、システム効率も向上しています。再生可能エネルギーの余剰を活用するために貯蔵・輸送・変換が求められるなか、水素は柔軟なエネルギー担体として、そして産業の脱炭素化を可能にする要素として、その重要性が一段と高まっています。同時に、素材、生産プロセス、電化におけるAI主導の進歩は、時間とともに水素の経済性を高めるとみています。こうした技術の融合は、産業ガス、電化、機器、インフラなど幅広い分野にわたる水素関連企業のエコシステムに好影響をもたらすと考えています。

水素経済の実現に必要なインフラ構築に対しては、当面は政策支援が続くとみられます。加えて、今後数年の市場の牽引役は、資金・信用面での潤沢な流動性に彩られてきた過去の時代とは大きく異なり、世界のエネルギー・システムの脱炭素化やエネルギー安全保障の強化など、社会的ニーズの高い分野の銘柄・セクターになると引き続き考えています。したがって、当ファンドでは、水素が環境・エネルギー関連の困難な問題の解決に役立つという現実世界の社会的ニーズに沿った銘柄の組み入れを維持していく方針です。

気候変動と地政学的懸念が深刻化するなか、世界はクリーンで安価かつ安全なエネルギーをこれまで以上に必要としています。クリーンエネルギーの重要性はよく議論的となりますが、対立が激化する世界において、「安全で安価」なエネルギーの重要性はどれだけ誇張してもしすぎることはありません。今日の各国政府が直面しているエネルギー危機は、過去数年にわたるエネルギー企業の設備投資不足と地政学的リスクの高まりを受け、長期間問題化しています。さらに、気候変動関連の支出は依然かなりの低水準にとどまっており、一方で気温の上昇による打撃はより顕著になってきています。これらの危機を解決するという目標を達成する上で重要なプラットフォームとなる水素は、今後10年において、あらゆる主要なクリーンテクノロジー・ソリューションのなかで最も高い成長を遂げるとみられます。したがって、当ファンドで厳選して組み入れている気候・エネルギーのソリューション提供企業は、今後の勝者になっていくと考えます。

当ファンドでは、クオリティが高いか改善しつつある水素関連企業への投資を継続していきます。これまでと同様、事業の質はフェューチャー・クオリティ投資の重要な柱であり、また、資本の賢明な投下・成長を図る経営陣に投資することも重要なポイントです。水素経済は大きな投資を必要としますが、これは好材料であると同時に、投資先が急速な拡大の必要性に耐え得る強いバランスシートを有する企業であることの重要性も示しています。

最後に、当ファンドは、今後の水素経済の生み出す変化が市場で過小評価されていると考える企業に投資しています。水素経済が日常生活にもたらす大きな変化だけでなく、ファンドの信託財産の成長という観点からも、今後も貢献していきたいと考えています。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



ご参考情報

※「組入上位銘柄の銘柄概要」は、個別銘柄の取引を推奨するものでも、将来の組入れを保証するものでもありません。
 ※記載の見解等は、アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッドによる作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

<組入上位10銘柄の銘柄概要>

1 BLOOM ENERGY CORP- A / ブルーム・エナジー	使う
固体酸化燃料電池 (SOFC) の固定型発電システムメーカー。固体酸化技術は、既存の水電解技術と比べて高い効率性を有するため、水素の需要が伸びる中で、同社製品の優位性が高まる可能性がある。また、生産コスト削減により、同社の水素事業は米国のほぼすべての州に拡大される見通しであるほか、世界的にも事業拡大が期待される。	
2 INFINEON TECHNOLOGIES AG / インフィニオン・テクノロジーズ	使う
半導体ソリューションの世界的リーダーです。特に電気自動車、再生可能エネルギー、産業オートメーションなど、電動化を実現する企業で、車載用半導体とパワー半導体における競争力と、高効率アプリケーション向けの炭化ケイ素と窒化ガリウム技術におけるリーダーです。AIサーバーや水素インフラといった長期的な成長テーマも期待できます。	
3 QUANTA SERVICES INC / クオンタ・サービシーズ	運ぶ・貯める
エネルギー供給ネットワーク分野に特化した工事請負企業。同社の再生エネルギー・インフラ事業は風力・太陽光・水力分野の大規模な発電・蓄電施設の設計・調達・建設や更新・修繕などを手掛ける。クリーン水素への需要は大幅な成長が期待されるが、同社は重要性の高い水素エネルギー関連プロジェクトを軌道に乗せるための能力を有する。	
4 CUMMINS INC / カミンズ	使う
エンジンメーカー。既存のディーゼルエンジンと天然ガスエンジン事業の延長として、水電解事業を展開。カナダで開発した20MW水電解装置は世界で最大級。2019年にハイドロジェネクス社を買収したことでクリーン燃料電池技術と水素発電能力を大きく強化し、燃料電池ソリューション事業へも参入。	
5 WEICHAI POWER CO LTD-H / ウェイチャイ・パワー	使う
中国の大型トラック・パワートレイン大手。ディーゼル/LNGで高い競争力を持ち、独KION最大株主として物流自動化にも展開。規模のメリットと買い替え需要で収益拡大していることに加え、燃料電池を起点に電動・メタノール・水素へ成長を図っています。	
6 CURTISS-WRIGHT CORP / カーチス・ライト・コープ	使う
航空宇宙、防衛分野のエンジニアリング企業。同社のセンサーは、極端な温度環境にも耐え、将来の液体水素ガスタービン燃料システム、水素燃料航空機エンジン、持続可能な航空技術での役割を目指しています。また、同社の原子力発電所で水素の蓄積を防ぐ技術は、安全性を高め、AIデータセンター向けの重要な燃料源である水素の利用を支援しています。	
7 LINDE PLC / リンデ	つくる
産業ガス供給会社で、売上高世界上位。製造、液化、貯蔵、配送など4つの水素セグメントで専門性を有する。ITMパワーとの合併によりPEM型電気分解技術も獲得。多額の設備投資の必要性や大手寡占的産業構造から、参入障壁は高いため、価格決定力を有している点が魅力。また、Praxairとの合併によるシナジー効果も期待。	
8 AIR LIQUIDE SA / エア・リキード	つくる
産業ガス供給会社で、売上高世界上位。製造、液化、貯蔵、配送など4つの水素セグメントで専門性を有する。同社の40年以上の実績のほか、多額の設備投資の必要性や大手寡占的産業構造から、参入障壁は高いため、価格決定力を有している点が魅力。同社は、水素売上高を現在の数倍に拡大させる計画を表明している。	
9 AMPHENOL CORP-CL A / アンフェノール・コープ	つくる
産業やデータ通信市場向けに、光ファイバーコネクタ、センサーを製造。電動化、EV普及、AI駆動のデータインフラや競争優位性により、安定した高いリターンを実現。また、電力インターコネクト製品やセンサーソリューションは、水素インフラ、燃料電池車、再生可能エネルギーシステムに不可欠であり、エネルギー転換を支える重要な存在です。	
10 MACQUARIE GROUP LTD / マッコリー・グループ	運ぶ・貯める
子会社グリーンインベストメントグループ (GIG) を通じ、エネルギー・インフラ事業に参画。GIGは、豪州や英国などでの水素事業化調査を含むプロジェクトに関与。水素を燃料とする肥料会社アトラス・アルゴのオーナーであるhyCCのジョイントベンチャーパートナーで、最近まで豪州再生可能エネルギー・ハブプロジェクトの15%株主であった。	

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



ファンドの特色

1

世界の株式の中から主に水素関連ビジネスを行なう企業の株式に投資を行ないます。

- 日本を含む世界の株式(DR(預託証券)を含みます。)の中から、今後の成長が期待される水素関連ビジネスを行なう企業の株式を中心に投資を行ないます。
- 外貨建資産への投資にあたっては、原則として、為替ヘッジは行ないません。

2

アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッドが運用を行ないます。

- 株式運用において実績を持つアモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッドのグローバル株式運用チームが、マザーファンドの運用を行ないます。

3

年1回、決算を行ないます。

- 毎年8月18日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。

※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

- 水素の活用機会は多岐にわたりますが、当ファンドでは、水素ビジネスを「**つくる、運ぶ・貯める、使う**」の3つのカテゴリーで捉え、これらの分野に関わる企業に投資を行ないます。

当ファンドの運用プロセスにおいて、ESG評価が投資対象選定の主要な要素ではないため、アモーヴァ・アセットマネジメントでは「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」を踏まえて、当ファンドは「ESG投信」に該当しないと判断しました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	無期限（2021年8月16日設定）
決算日	毎年8月18日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日が下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・英国証券取引所の休業日 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ロンドンの銀行休業日 ・ニューヨークの銀行休業日
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度（NISA）の適用対象となります。 ※当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料 購入時の基準価額に対し3.3%（税抜3%）以内
※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料 ありません。

信託財産留保額 ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく（ファンドから支払われる）費用>

運用管理費用 ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.6885%（税抜1.535%）

（信託報酬）

その他の費用・手数料 目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用（業務委託する場合の委託費用を含みます。）、監査費用、運用において利用する指数の標章使用料などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入の有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。また、有価証券の貸付は現在行なっておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社
投資顧問会社	アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッド
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社 〔ホームページ〕 www.amova-am.com 〔コールセンター〕 0120-25-1404（午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。）

■お申込みに際しての留意事項

○リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

- ・株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・新興国の株式は先進国の株式に比べて、また中小型株式は株式市場全体の平均に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

流動性リスク

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- ・新興国の株式は先進国の株式に比べて、また中小型株式は株式市場全体の平均に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

信用リスク

- ・投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

為替変動リスク

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

カントリー・リスク

- ・投資対象国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。
- ・上海や深センのストックコネクト（株式相互取引制度）を通じた中国A株への投資においては、取引可能な銘柄が限定されていることに加えて、投資枠や取引可能日の制約、長期にわたって売買停止措置がとられる可能性などにより、意図した通りの取引ができない場合があります。また、ストックコネクト特有の条件や制限は、今後、中国当局の裁量などにより変更となる可能性があります。さらに、ストックコネクトにおける取引通貨はオフショア人民元となり、QFII制度の取引通貨である中国本土のオンショア人民元の為替レートの値動きとは乖離する場合があります。こうした要因から、ファンドの基準価額に影響を与える可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様へ帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は **アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社**
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
 加入協会：一般社団法人資産運用業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
株式会社あいち銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第12号	○		○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第67号	○	○		
株式会社足利銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第43号	○		○	
株式会社イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○			
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第15号	○	○	○	
株式会社SBI証券 ※右の他に一般社団法人日本STO協会、 ※右の他に一般社団法人日本暗号資産等取引業協会、 ※右の他に日本商品先物取引協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券） （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
株式会社大垣共立銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第3号	○		○	
OKB証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第191号	○			
おかやま信用金庫	登録金融機関	中国財務局長（登金）第19号	○			
株式会社沖縄銀行	登録金融機関	沖縄総合事務局長（登金）第1号	○			
株式会社香川銀行	登録金融機関	四国財務局長（登金）第7号	○			
株式会社神奈川銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第55号	○			
株式会社さらやか銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第15号	○			
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2938号	○			
株式会社群馬銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第46号	○		○	
株式会社三十三銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第16号	○			
三条信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第244号	○			
Jトラストグローバル証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第35号	○	○		
静銀ティエム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第10号	○			
新庄信用金庫	登録金融機関	東北財務局長（登金）第37号	○			
株式会社仙台銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第16号	○			
株式会社大光銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第61号	○			
株式会社筑邦銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第5号	○			
東海東京証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第140号	○	○	○	○
株式会社トマト銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第11号	○			
株式会社富山銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第1号	○			
新潟信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第249号	○			
西尾信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第58号	○			
のと共栄信用金庫	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第30号	○			
株式会社八十二長野銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第49号	○		○	
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第20号	○			
広島信用金庫	登録金融機関	中国財務局長（登金）第44号	○			
福井信用金庫	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第32号	○			
株式会社福岡中央銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第14号	○			
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○		○	
株式会社北陸銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第3号	○		○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
三島信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第68号	○			
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第649号	○	○	○	
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○		○	○
m o m o o証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第3335号	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
 ※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。